

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2013-215424

(P2013-215424A)

(43) 公開日 平成25年10月24日(2013.10.24)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
A 4 7 B 13/00 (2006.01)	A 4 7 B 13/00 B	3 B 0 5 3
A 4 7 B 97/00 (2006.01)	A 4 7 B 97/00 M	

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号	特願2012-89158 (P2012-89158)	(71) 出願人	000139780
(22) 出願日	平成24年4月10日 (2012.4.10)		株式会社イトーキ
			大阪府大阪市城東区今福東1丁目4番12号
		(74) 代理人	100074561
			弁理士 柳野 隆生
		(74) 代理人	100124925
			弁理士 森岡 則夫
		(74) 代理人	100141874
			弁理士 関口 久由
		(72) 発明者	柴田 慶太
			大阪市城東区今福東1丁目4番12号 株式会社イトーキ内
		Fターム(参考)	3B053 NN01 NN02

(54) 【発明の名称】 配線ダクトのコード類引出装置

(57) 【要約】

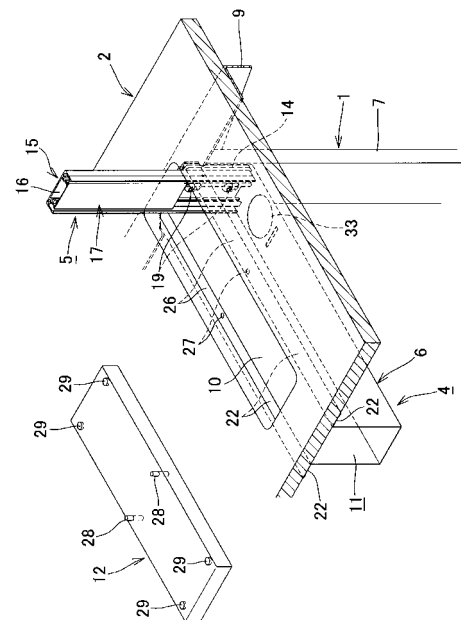
【課題】

天板に設けたダクト開口へダクトカバーを装着する構造が簡単であり、ダクト開口に対する着脱も容易であり、ダクトカバーをダクト開口に装着したままでもコード類を天板上に引き出すことが可能であり、しかも天板とダクトカバーをどちらも木質系に統一することが可能である配線ダクトのコード類引出装置を提供する。

【解決手段】

什器の天板2下方に配線ダクト6を備え、天板に配線ダクトに連通するダクト開口10を設けるとともに、ダクト開口にダクトカバー12を装着してなる配線ダクトのコード類引き出し装置であって、ダクト開口の内部の前後部に形成された段状部26にダクトカバーを載置するとともに、ダクトカバーと段状部とに設けた係着手段にて着脱可能に位置固定し、ダクトカバーの左右両側端とダクト開口の左右開口縁との間にコード類を引き出すための挿通孔を設けた。

【選択図】 図5



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

什器の天板下方に配線ダクトを備え、該天板に配線ダクトに連通するダクト開口を設けるとともに、該ダクト開口にダクトカバーを装着してなる配線ダクトのコード類引き出し装置であって、前記ダクトカバーを、前記ダクト開口の内部の前後部に形成された段状部に載置するとともに、該ダクトカバーと段状部とに設けた係着手段にて着脱可能に位置固定し、該ダクトカバーの左右両側端とダクト開口の左右開口縁との間にコード類を引き出すための挿通孔を設けたことを特徴とする配線ダクトのコード類引出装置。

【請求項 2】

前記配線ダクトは、天板の下面にスチール製のダクト本体杆を設けて形成し、該ダクト本体杆は、上方開放した凹溝部を有するとともに、前後上縁に補強鍔部を折曲形成した長尺部材であり、前記凹溝部の横幅よりも前記ダクト開口の前後幅を広く設定し、該ダクト開口の内部の前後部に前記補強鍔部が段状に位置して前記段状部を形成してなる請求項 1 記載の配線ダクトのコード類引出装置。

10

【請求項 3】

前記係着手段として、前記段状部に形成した係合孔に前記ダクトカバーの裏面に突設したピンを係合する構造を用いてなる請求項 1 又は 2 記載の配線ダクトのコード類引出装置。

【請求項 4】

前記係着手段として、前記ダクトカバーの裏面に設けたマグネットを前記段状部の磁性材料に吸着する構造を用いてなる請求項 1 又は 2 記載の配線ダクトのコード類引出装置。

20

【請求項 5】

前記係着手段として、前記段状部の左右中央には係合孔をそれぞれ形成し、前記ダクトカバーの裏面の左右中央の前後縁部に前記係合孔に係入するピンを突設するとともに、裏面の四隅部分には前記段状部の磁性材料に吸着するマグネットを埋設してなる構造を用いてなる請求項 1 又は 2 記載の配線ダクトのコード類引出装置。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、配線ダクトのコード類引出装置に係わり、更に詳しくは天板下方の配線ダクトから天板上にコード類を配線するためのコード類引出装置に関するものである。

30

【背景技術】**【0002】**

テーブルやデスクの天板の横方向、つまり天板の長手方向にダクト開口を形成し、該ダクト開口にダクトカバーを装着し、天板下方に設けた水平配線ダクトからコード類を天板上に引き出すことができる構造は各種提供されている。この場合、前記ダクトカバーを外し、あるいは回動させて開き、ダクト開口を開放してコード類の配線作業を行うが、前記ダクトカバーでダクト開口を閉じた状態でもコード類を隙間から引き出すことができるようになっているものも公知である。

【0003】

40

例えば、特許文献 1 には、左右の脚体の間を脚間モジュールで連結するとともに、両脚体の上面に前後に間隔を置いて天板を載置して取付け、前後の天板間の下方には前記脚間モジュールのダクト開口を位置させ、該脚間モジュールのダクト開口にはダクトカバーを着脱可能に装着するとともに、前記天板の後端と該ダクトカバーの間には隙間を設けた構造の配線ダクトのコード類引出装置が開示されている。つまり、前記ダクトカバーをダクト開口に装着したままで、該ダクトカバーの前後縁と天板の後端との間の隙間を通してコード類を天板上に引き出すことができるようになっている。

【0004】

また、特許文献 2 には、天板の長さ方向に沿って開口された配線ダクトに対し、そのダクトを横断する方向でカバー受け金具を設けると共に、該受け金具に、配線カバーの開閉

50

回転動作を支持する軸を具備した支持軸ブロックを位置と向きを変更して装着できるように形成したブロック装着部材を取付ける一方、前記ブロック装着部材に対称な向きで装着した支持軸ブロックの軸に、配線カバーを、そのカバー裏面に形成した軸受部において着脱可能で起伏自在に装着したダクトカバーの取付構造が開示されている。ここで、前記配線カバーの先端縁には柔軟性のフリーカバーが設けられているので、該配線カバーを閉じた状態でもフリーカバーを変形させながら、配線カバーと前記天板の後端との間からコード類を天板上に引き出すことが可能である。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0005】

10

【特許文献1】特開2007-151824号公報

【特許文献2】特開2010-233595号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

しかしながら、ダクト開口にダクトカバーを装着する従来の構造は、ダクト開口の内部にダクトカバーを支持する部材を別途設けたりするなど、構造が複雑になっていた。また、ダクトカバーは、合成樹脂やアルミの押出し型材を適当な長さに切断して使用するものが多く、木質系の天板の場合に材質が異なるので、外観性の不一致が否めない。

【0007】

20

そこで、本発明が前述の状況に鑑み、解決しようとするところは、天板に設けたダクト開口へダクトカバーを装着する構造が簡単であり、ダクト開口に対する着脱も容易であり、ダクトカバーをダクト開口に装着したままでもコード類を天板上に引き出すことが可能であり、しかも天板とダクトカバーをどちらも木質系に統一することが可能である配線ダクトのコード類引出装置を提供する点にある。

【課題を解決するための手段】

【0008】

本発明は、前述の課題解決のために、什器の天板下方に配線ダクトを備え、該天板に配線ダクトに連通するダクト開口を設けるとともに、該ダクト開口にダクトカバーを装着してなる配線ダクトのコード類引き出し装置であって、前記ダクトカバーを、前記ダクト開口の内部の前後部に形成された段状部に載置するとともに、該ダクトカバーと段状部とに設けた係着手段にて着脱可能に位置固定し、該ダクトカバーの左右両側端とダクト開口の左右開口縁との間にコード類を引き出すための挿通孔を設けたことを特徴とする配線ダクトのコード類引出装置を構成した（請求項1）。

30

【0009】

ここで、前記配線ダクトは、天板の下面にスチール製のダクト本体杆を設けて形成し、該ダクト本体杆は、上方開放した凹溝部を有するとともに、前後上縁に補強鍔部を折曲形成した長尺部材であり、前記凹溝部の横幅よりも前記ダクト開口の前後幅を広く設定し、該ダクト開口の内部の前後部に前記補強鍔部が段状に位置して前記段状部を形成してなることが好ましい（請求項2）。

40

【0010】

更に、前記係着手段として、前記段状部に形成した係合孔に前記ダクトカバーの裏面に突設したピンを係合する構造を用いてなることが好ましい（請求項3）。

【0011】

あるいは、前記係着手段として、前記ダクトカバーの裏面に設けたマグネットを前記段状部の磁性材料に吸着する構造を用いてなることも好ましい（請求項4）。

【0012】

あるいは、前記係着手段として、前記段状部の左右中央には係合孔をそれぞれ形成し、前記ダクトカバーの裏面の左右中央の前後縁部に前記係合孔に係入するピンを突設するとともに、裏面の四隅部分には前記段状部の磁性材料に吸着するマグネットを埋設してなる

50

構造を用いてなることがより好ましい（請求項５）。

【発明の効果】

【００１３】

以上にしてなる請求項１に係る発明の配線ダクトのコード類引出装置は、什器の天板下方に配線ダクトを備え、該天板に配線ダクトに連通するダクト開口を設けるとともに、該ダクト開口にダクトカバーを装着してなる配線ダクトのコード類引き出し装置であって、前記ダクトカバーを、前記ダクト開口の内部の前後部に形成された段状部に載置するとともに、該ダクトカバーと段状部とに設けた係着手段にて着脱可能に位置固定し、該ダクトカバーの左右両側端とダクト開口の左右開口縁との間にコード類を引き出すための挿通孔を設けたので、単にダクトカバーの裏面前後部をダクト開口の内部の前後部に形成した段状部に載置すると同時に、ダクトカバーと段状部とに設けた係着手段にて着脱可能に位置固定するだけで、正確な位置にダクトカバーを装着することができ、またダクトカバーをダクト開口に装着したままでも、左右両側の挿通孔からコード類を天板上に引き出すことができる。また、前記天板とダクトカバーをどちらも木質系の材質で作製することができ、その場合には外観性の統一を図ることができる。

10

【００１４】

請求項２によれば、前記配線ダクトは、天板の下面にスチール製のダクト本体杆を設けて形成し、該ダクト本体杆は、上方開放した凹溝部を有するとともに、前後上縁に補強鍔部を折曲形成した長尺部材であり、前記凹溝部の横幅よりも前記ダクト開口の前後幅を広く設定し、該ダクト開口の内部の前後部に前記補強鍔部が段状に位置して前記段状部を形成してなるので、天板の下面にスチール製のダクト本体杆の補強鍔部をネジ止めする等の固定手段で連結すれば、天板を補強することができ、また両側の補強鍔部が前記ダクト開口の前後部に露出するので、この露出部分を、前記ダクトカバーを載置する段状部として利用でき、天板に特別な加工を施す必要がない。

20

【００１５】

請求項３によれば、前記係着手段として、前記段状部に形成した係合孔に前記ダクトカバーの裏面に突設したピンを係合する構造を用いてなるので、単にダクトカバーを段状部に載置するとともに、ピンを係合孔に係合するだけで、ダクトカバーをダクト開口の正確な位置に装着することができ、コード類の配線作業の際にダクトカバーの着脱も極めて容易である。つまり、ダクトカバーを外す場合には、前記挿通孔から指を挿入してダクトカバーの左右一側部を持ち上げれば、ピンも係合孔から抜けるので、作業が容易である。

30

【００１６】

請求項４によれば、前記係着手段として、前記ダクトカバーの裏面に設けたマグネットを前記段状部の磁性材料に吸着する構造を用いてなるので、前記ピンと係合孔の係合と、スチール製の段状部にマグネットを吸着させることにより、単にダクトカバーを段状部に載置するとともに、マグネットを段状部の磁性材料に吸着するだけで、ダクトカバーをダクト開口の正確な位置に装着することができ、コード類の配線作業の際にダクトカバーの着脱も極めて容易である。つまり、ダクトカバーを外す場合には、前記挿通孔から指を挿入してダクトカバーの左右一側部を持ち上げれば、前記マグネットが段状部から引き離されるので、作業が容易である。

40

【００１７】

請求項５によれば、前記係着手段として、前記段状部の左右中央には係合孔をそれぞれ形成し、前記ダクトカバーの裏面の左右中央の前後縁部に前記係合孔に係入するピンを突設するとともに、裏面の四隅部分には前記段状部の磁性材料に吸着するマグネットを埋設してなる構造を用いてなるので、ピンと係合孔の係合により正確に位置決めすることができるとともに、マグネットと段状部の磁性材料との吸着により固定することができ且つダクトカバーを持ち上げれば引き離すことができ、加えてダクトカバーは左右反転させてもダクト開口に、正確な姿勢で装着することができる。

【図面の簡単な説明】

【００１８】

50

【図 1】本発明に係る配線ダクトのコード類引出装置を備えたテーブルの全体斜視図である。

【図 2】同じく正面図である。

【図 3】同じく側面図である。

【図 4】同じく要部の分解斜視図である。

【図 5】同じく要部の部分拡大斜視図である。

【図 6】柱状配線ダクトと水平配線ダクトとの関係を示す部分横断平面図である。

【図 7】同じく部分縦断側面図である。

【図 8】柱状配線ダクトを水平配線ダクト内に取付ける前の状態を示した分解縦断正面図である。

10

【図 9】同じく柱状配線ダクトを水平配線ダクト内に取付けた後の状態を示した分解縦断正面図である。

【図 10】水平配線ダクトのダクトカバーの着脱構造を示す部分平面図である。

【発明を実施するための形態】

【0019】

次に、添付図面に示した実施形態に基づき、本発明を更に詳細に説明する。図 1～図 3 は本発明に係る配線ダクトのコード類引出装置を備えたテーブルを示し、図 4～図 10 はその詳細を示し、図中符号 1 は脚体、2 は天板、3 はビーム、4 は水平配線ダクト、5 は柱状配線ダクト、10 はダクト開口、12 はダクトカバーをそれぞれ示している。尚、本発明はデスクであっても、何ら変更することなく、適用可能である。

20

【0020】

本実施形態のテーブルは、両側に配した脚体 1，1 の下部間にビーム 3 を連結するとともに、上端部間に水平配線ダクト 4 を構成するダクト本体杆 6 を連結し、前記脚体 1，1 と該ダクト本体杆 6 とで天板 2 を支持する構造である。前記脚体 1 は、垂直な脚柱 7 の下端に接地杆 8 を前後方向に固定するとともに、脚柱 7 の上端に水平杆 9 を固定した、側面視倒 H 字形の構造であり、前記脚柱 7 の下部と上端部の内面側にそれぞれ前記ビーム 3 とダクト本体杆 6 とを連結している。

【0021】

本発明は、天井から天板上にコード類を配線するための柱状配線ダクト 5 と水平配線ダクト 4 とを備えたテーブル、デスクにおける配線装置であって、脚体 1 に支持された天板 2 の下方に前記水平配線ダクト 4 のダクト本体杆 6 を備えるとともに、該天板 2 の側端よりも中央寄りに前記水平配線ダクト 4 のダクト開口 10 を形成し、前記柱状配線ダクト 5 の下部を、前記ダクト開口 10 を通して前記ダクト本体杆 6 の終端部に固定して立設し、前記水平配線ダクト 4 と柱状配線ダクト 5 を連係してなるものである。

30

【0022】

更に詳しくは、前記水平配線ダクト 4 のダクト本体杆 6 は、上方が開放された樋状長尺部材であり、前記両脚体 1，1 間に終端部を連結して該脚体 1 と共に前記天板 2 の下面を支持し、前記天板 2 に形成した単数又は複数の前記ダクト開口 10，... が前記ダクト本体杆 6 の凹溝部 11 の上方に位置するようにしている。

【0023】

40

そして、前記各ダクト開口 10 には、ダクトカバー 12 を着脱自在に設けている。本実施形態では、前記天板 2 は木質系の材質を用い、前記ダクトカバー 12 も木質系の材質を用いて全体の外観性の統一を図っている。前記ダクト開口 10 の左右開口縁、即ち前記ダクト本体杆 6 の凹溝部 11 に沿った方向と交差する両開口縁と前記ダクトカバー 12 の両側端縁の間に、コード類を引き出すことが可能な挿通孔 13，13 を形成している。尚、前記ダクト開口 10 の前後縁と前記ダクトカバー 12 の前後縁との間は着脱のための僅かなクリアランスを設けただけであり、前記天板 2 とダクトカバー 12 の上面は略面一で実質的に連続している。

【0024】

そして、図 1、図 4～図 9 に示すように、前記ダクト本体杆 6 の終端部に前記脚体 1 の

50

脚柱 7 の内面に連結する取付板 1 4 を有し、前記柱状配線ダクト 5 の下部を前記取付板 1 4 と前記脚体 1 の脚柱 7 の内面に共締めしている。ここで、前記柱状配線ダクト 5 は、内側面側にコード類を収容する凹溝 1 6 を有する柱部材 1 5 と、該凹溝 1 6 を塞ぐカバー部材 1 7 とから形成され、該柱部材 1 5 の下端部にはカバー部材 1 7 を設けないようにしている。前記柱部材 1 5 は、アルミ押出し型材からなり、前記カバー部材 1 7 は、合成樹脂製の押出し型材からなる。尚、前記柱部材 1 5 の強度が足りない場合には、前記凹溝 1 6 の内部に断面略コ字形のスチール製の補強部材を嵌着し、一体化する。

【 0 0 2 5 】

前記柱状配線ダクト 5 の下部を前記取付板 1 4 と前記脚体 1 の脚柱 7 の内面に共締めする具体的な構造は、図 4、図 5、図 8 及び図 9 に示している。前記脚体 1 の脚柱 7 の上端部内面に、上下に複数の螺孔 1 8 , 1 8 を形成し、それぞれの螺孔 1 8 に締結ネジ 1 9 を螺合する。一方、前記ダクト本体杆 6 の取付板 1 4 と、前記柱状配線ダクト 5 の柱部材 1 5 の下部に、前記締結ネジ 1 9 に対応するように、それぞれダルマ孔 2 0 , 2 0 とダルマ孔 2 1 , 2 1 を形成している。ここで、前記ダルマ孔 2 0 , 2 1 は、前記締結ネジ 1 9 の頭部 1 9 A を挿入する大径孔 2 0 A , 2 1 A と、その上方に前記締結ネジ 1 9 の軸部 1 9 B を受け入れ且つ頭部 1 9 A より幅の狭い小径孔 2 0 B , 2 1 B とを連続した形状である。そして、前記脚体 1 の脚柱 7 の内面に緩く螺合した前記締結ネジ 1 9 , 1 9 に、前記ダクト本体杆 6 の取付板 1 4 に形成したダルマ孔 2 0 , 2 0 をそれぞれ係止して仮連結し、それから該脚体 1 とダクト本体杆 6 に前記天板 2 を載置した状態で、前記ダクト開口 1 0 を通して挿入した前記柱状配線ダクト 5 の柱部材 1 5 に形成したダルマ孔 2 1 , 2 1 を前記締結ネジ 1 9 , 1 9 に係止した後、該締結ネジ 1 9 , 1 9 を本締めする。

【 0 0 2 6 】

それから、前記ダクト本体杆 6 の終端部に固定して立設した前記柱状配線ダクト 5 の外側面に、前記天板 2 の側端側のダクト開口 1 0 の側縁を当止し、その位置決め状態で、該天板 2 を下方から、前記脚体 1 の上端に設けた水平杆 9 と、ダクト本体杆 6 の両側上端に形成した補強鍔部 2 2 , 2 2 に、ネジ止めする。前記天板 2 の下面には、所定位置に予めオニメナット等を埋設して螺孔 2 3 , ... を形成しておき、前記脚体 1 の水平杆 9 と前記ダクト本体杆 6 の補強鍔部 2 2 , 2 2 に形成した取付孔 2 4 , ... に下方からネジ 2 5 , ... を挿入して前記螺孔 2 3 , ... に螺合する。ここで、前記天板 2 の下面は平面であるので、前記脚体 1 とダクト本体杆 6 に載置しただけでは、前記螺孔 2 3 と取付孔 2 4 の位置を合わせるの難しいが、前述のようにダクト開口 1 0 の側縁と柱状配線ダクト 5 の外側面を位置決め基準とすることにより、容易に位置決めができるのである。

【 0 0 2 7 】

本実施形態では、前記ダクト開口 1 0 は、前記天板 2 の前後中央部で左右方向の三箇所形成している。そして、前記天板 2 の一側端側のダクト開口 1 0 の外側端部に前記柱状配線ダクト 5 が位置している。前記ダクトカバー 1 2 は、前記柱状配線ダクト 5 を立起状態で装着した状態でも前記ダクト開口 1 0 に装着することができるようになっている。その場合にも、中央寄りの他側には前記挿通孔 1 3 が形成される。

【 0 0 2 8 】

前記ダクト本体杆 6 は、スチール製で作製されており、前記凹溝部 1 1 の横幅よりも前記ダクト開口 1 0 の前後幅を広く設定し、該ダクト開口 1 0 の内部の前後部に前記補強鍔部 2 2 , 2 2 が段状に位置し、この段状部 2 6 , 2 6 に前記ダクトカバー 1 2 の前後縁部を載置できるようになっている。前記段状部 2 6 , 2 6 の左右中央には係合孔 2 7 , 2 7 をそれぞれ形成し、前記ダクトカバー 1 2 の裏面の左右中央の前後縁部に突設したピン 2 8 , 2 8 を前記係合孔 2 7 , 2 7 に係入することにより、ダクト開口 1 0 の内部の正確な位置に当該ダクトカバー 1 2 を装着できるようにしている。更に、前記ダクトカバー 1 2 の裏面の四隅部分にはマグネット 2 9 , ... を埋設し、前記段状部 2 6 , 2 6 に吸着して当該ダクトカバー 1 2 を保持するようにしている。つまり、スチール製の前記段状部 2 6 , 2 6 が磁性材料となる。前記ダクトカバー 1 2 をダクト開口 1 0 から外すには、前記挿通孔 1 3 から指を挿入して該ダクトカバー 1 2 の一側部を持ち上げれば、前記マグネット 2

9, ... が前記補強鍔部 22, 22 から離れると同時に、前記ピン 28, 28 が補強鍔部 22, 22 の係合孔 27, 27 から抜ける。尚、前記ダクト本体杆 6 がスチール製でない場合には、前記段状部 26, 26 に鉄片などの磁性材料を別途固定すればよい。

【0029】

本発明において係着手段とは、前記ピン 28 と係合孔 27 との係合構造、あるいは前記マグネット 29 と前記段状部 26, 26 が磁性材料との吸着構造、あるいは両者を併用した構造とする。

【0030】

ここで、前記ダクトカバー 12 は、左右対称形にすれば、前記ダクト開口 10 に装着する際に向きを間違えることがなく、また左右両側に形成される挿通孔 13, 13 の幅が同じになり、外観的にも好ましくなる。そして、前記柱状配線ダクト 5 が、前記挿通孔 13 に収まるように構成すれば、全てのダクト開口 10 とダクトカバー 12 を共通の形状にすることができる。

【0031】

前述のように、前記脚体 1 の脚柱 7 の内面に緩く螺合した締結ネジ 19, 19 に、前記ダクト本体杆 6 の取付板 14 に形成したダルマ孔 20, 20 と前記柱状配線ダクト 5 の柱部材 15 に形成したダルマ孔 21, 21 を係止して仮連結した後、前記締結ネジ 19, 19 を本締めするが、このとき電動ドライバーを使用できるように、前記ダクト本体杆 6 の凹溝部 11 の横幅と、前記ダクト開口 10 の左右方向の長さ、十分に余裕を持たせている。本実施形態では、前記凹溝部 11 の横幅は、約 70 mm であり、前記ダクト開口 10 は 100 mm × 400 mm に設定している。このようにすれば、電動ドライバーをダクト開口 10 から前記凹溝部 11 内に挿入し、前記締結ネジ 19, 19 を軸方向から回転させることができる。

【0032】

前記柱状配線ダクト 5 の柱部材 15 は、図 4 及び図 6 に示すように、凹溝 16 内の両側に係止条部 30, 30 を形成し、両係止条部 30, 30 に前記カバー部材 17 の両側の脚片 31, 31 を係脱可能に係合するようになっている。そして、前記凹溝 16 とカバー部材 17 とで、鉛直方向の閉じたダクト空間が形成される。尚、本実施形態では、前記係止条部 30 の外側にも前記カバー部材 17 で覆われない溝部が形成されており、前記ダクト空間に電源コード等の強電コード類を配線し、外側の溝部に LAN ケーブルや電話線等の弱電コード類を分離して配線することも可能である。勿論、全てのコード類を前記凹溝 16 とカバー部材 17 とで形成されたダクト空間に配線することも可能である。

【0033】

そして、天井から前記柱状配線ダクト 5 にコード類を引き込むために、直接引き込んで良いが、天井からのコード類と柱状配線ダクト 5 に配線するコード類をコネクタで接続することもあり、その場合にタップやプラグ等のコネクタ類を収容するための接続ボックス 32 が前記柱部材 15 の上端に固定されている。前記接続ボックス 32 は、図 1 ~ 図 3 に示すように、上方へ開放した台形状を有し、その内部に余剰コード類を収容しておくことも可能である。また、前記柱状配線ダクト 5 の下端部で、前記ダクト本体杆 6 の凹溝部 11 の内部に対応する部分には、前記カバー部材 17 を設けてなく、前記柱部材 15 の凹溝 16 を露出させている。こうすることによって、前記水平配線ダクト 4 と柱状配線ダクト 5 が連通し、天井から下ろしたコード類を、柱状配線ダクト 5 を通して水平配線ダクト 4 に配線し、前記ダクト開口 10 から天板 2 上に引き出すことができる。そして、前記ダクト開口 10 にダクトカバー 12 を装着した場合であっても、左右両側の挿通孔 13, 13 の片方又は両方からコード類を引き出したままにできるのである。尚、前記ダクト開口 10 に対応するダクト本体杆 6 の底面には、開口 33 が設けられ、該開口 33 を通して下方へコード類を引き出すこともできるとしている。

【0034】

本発明に係るテーブルは、図 1、図 2、図 5、図 6 及び図 9 に示すように、前記天板 2 の側端面よりも中央寄り位置に前記柱状配線ダクト 5 が立設されている。従って、前記天

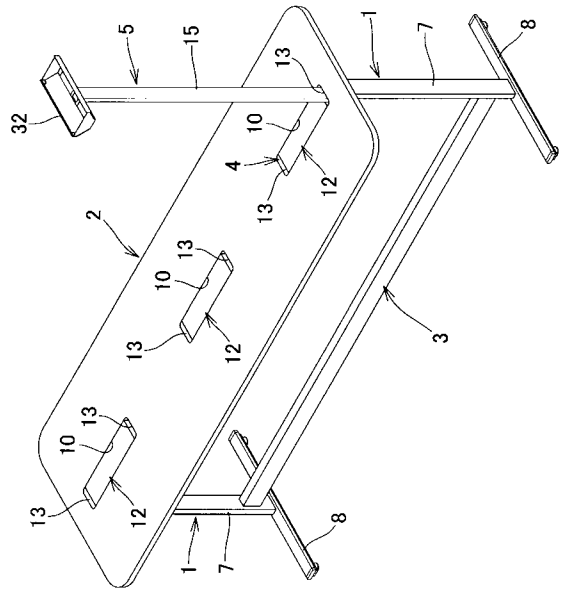
板 2 の側端を他のテーブルの天板の縁部に接合したり、壁面に接合する場合でも、前記柱状配線ダクト 5 が邪魔になることはない。更に、前記柱状配線ダクト 5 よりも側方の天板 2 の側部を積極的に利用できるように、前記脚体 1 から側方へ突出する長さを大きくして、側部に着座した使用者も余裕を持って天板 2 を利用できるようにすることも好ましい。更に、前記天板 2 の側部を半円状に側方へ突出させることも好ましい。このように、前記天板 2 の形状を自由に設定できるので、前記柱状配線ダクト 5 を天板 2 の側端よりも中央より寄り位置に設けたダクト開口 10 の内部を利用して立設したからである。

【符号の説明】

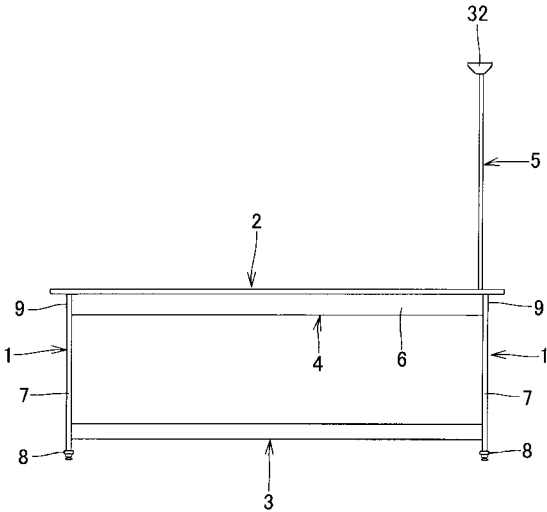
【 0 0 3 5 】

1 脚体、	2 天板、	10
3 ビーム、	4 水平配線ダクト、	
5 柱状配線ダクト、	6 ダクト本体杆、	
7 脚柱、	8 接地杆、	
9 水平杆、	10 ダクト開口、	
11 凹溝部、	12 ダクトカバー、	
13 挿通孔、	14 取付板、	
15 柱部材、	16 凹溝、	
17 カバー部材、	18 螺孔、	
19 締結ネジ、	19 A 頭部、	
19 B 軸部、	20 ダルマ孔、	20
21 ダルマ孔、	20 A , 21 A 大径孔、	
20 B , 21 B 小径孔、	22 補強鏢部、	
23 螺孔、	24 取付孔、	
25 ネジ、	26 段状部、	
27 係合孔、	28 ピン、	
29 マグネット、	30 係止条部、	
31 脚片、	32 接続ボックス、	
33 開口。		

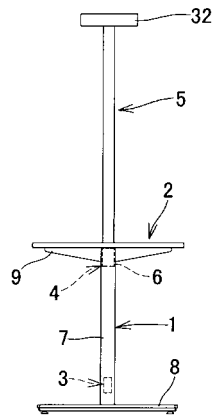
【図 1】



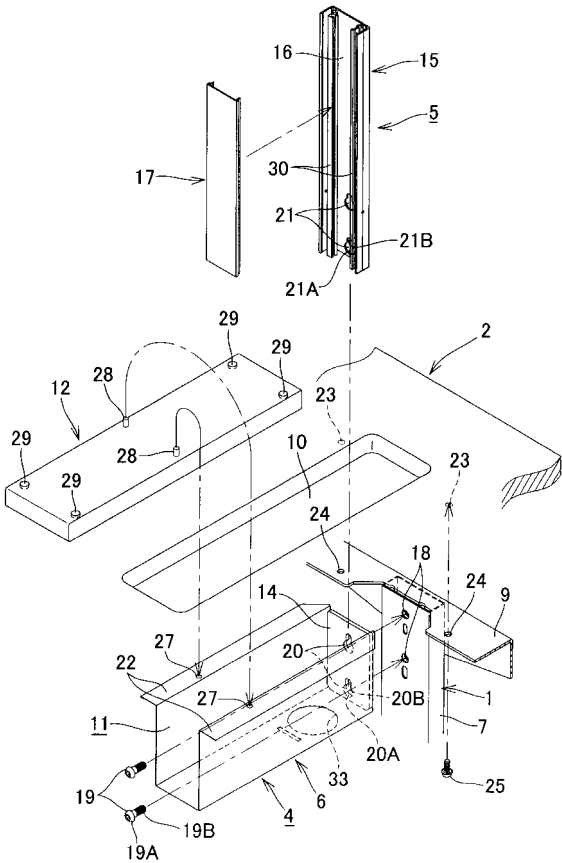
【図 2】



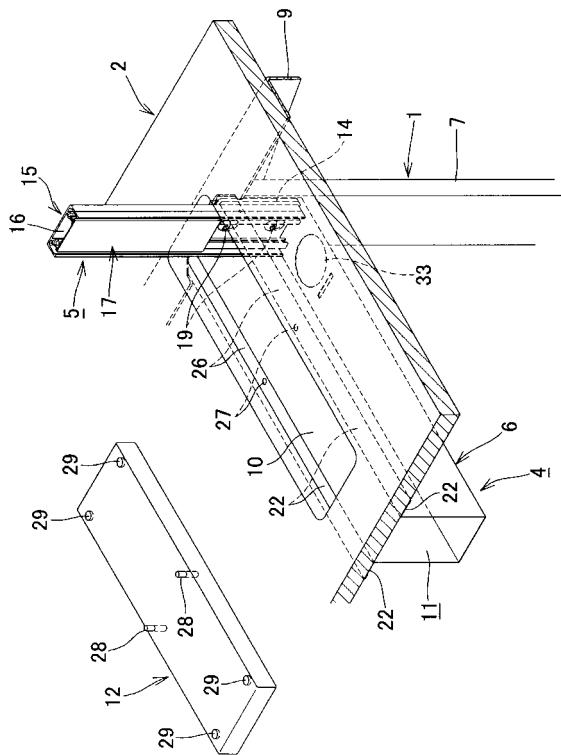
【図 3】



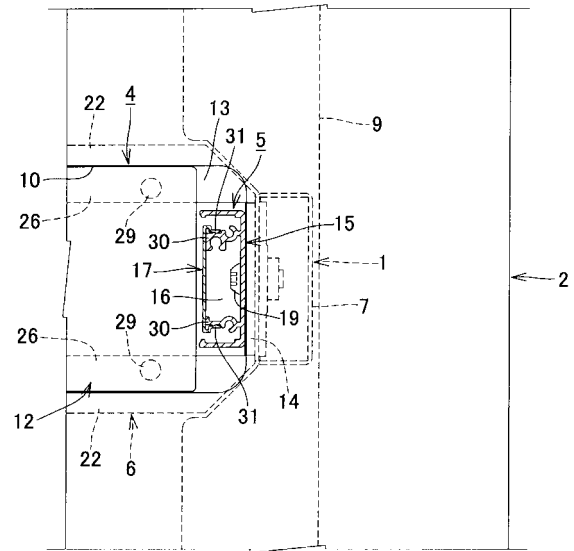
【図 4】



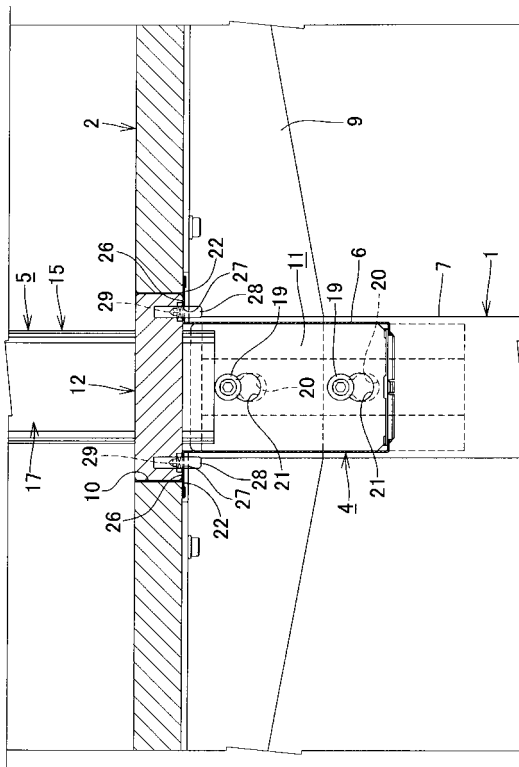
【図 5】



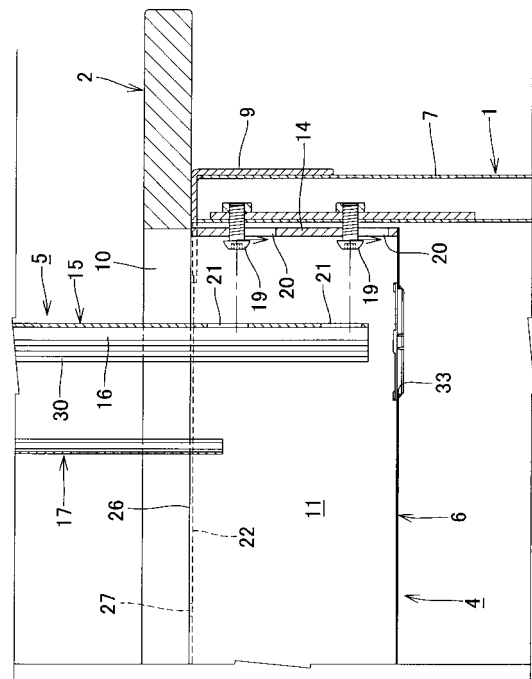
【図 6】



【図 7】



【図 8】



【 図 1 0 】

